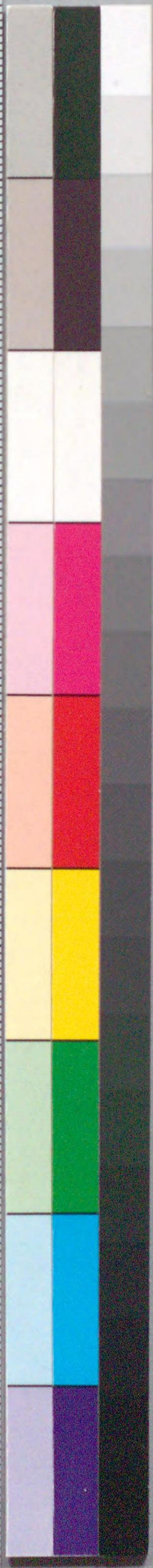




208
12
686

系柳
十一



国立国会図書館 同房語艶以登家奈幾 4編 208-686

ガラス使用



国立国会図書館

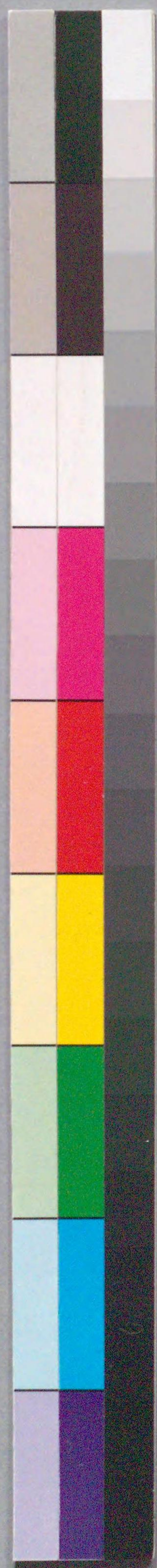
同房語艶以登家奈幾 4編 208-686

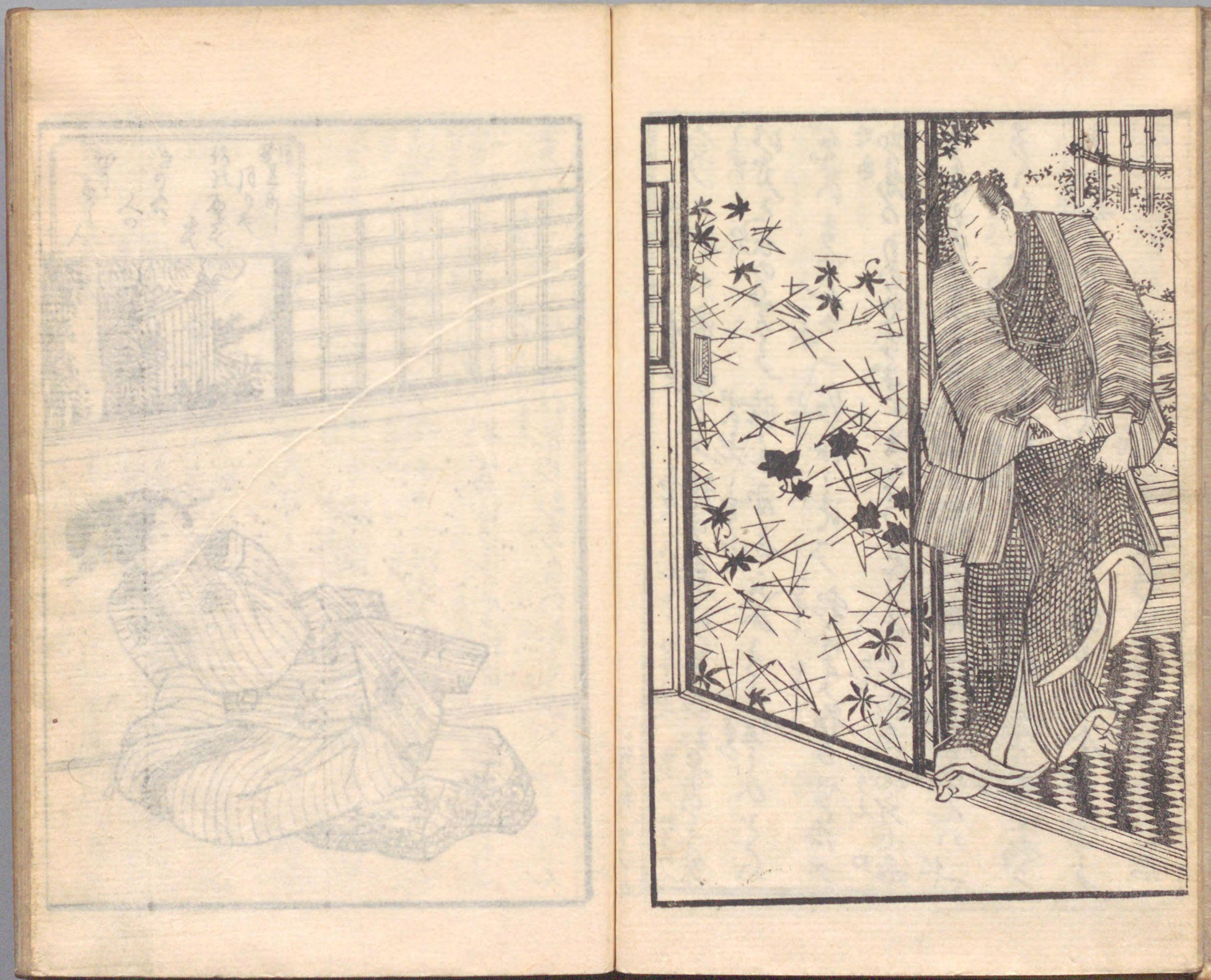
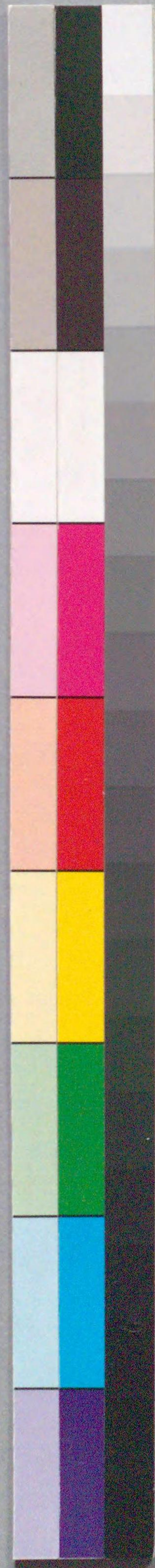
ガラス使用

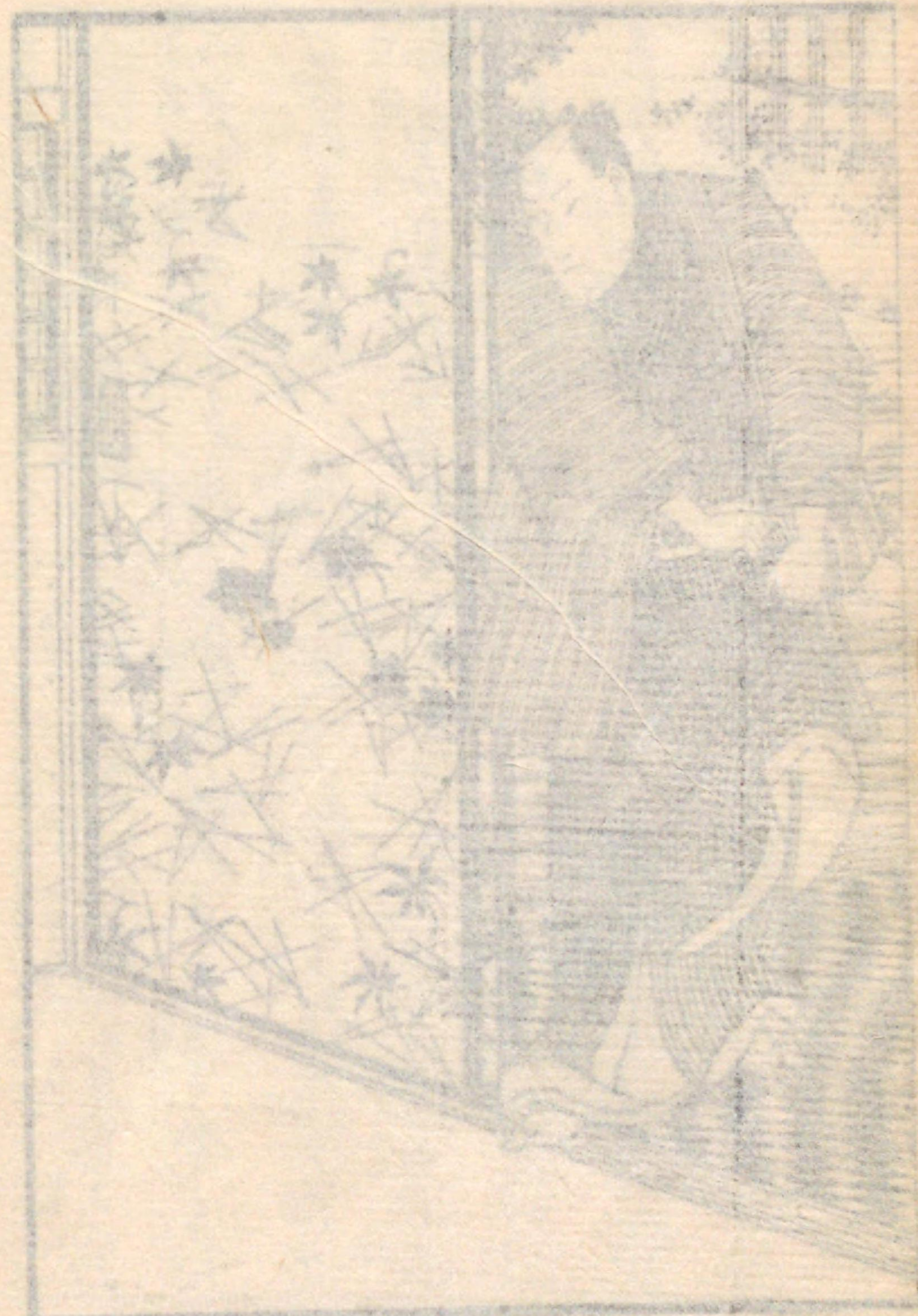
きぬくはむりやんきりま〜ころろ平産おんき
お目ふりけがまひお呻や二一将のをり〜おし
遠ふおろまけんころろろ作去清まんの親類の
子成おろふおろくそふお高ひ店成源合意〜おし
あふ〜お下る舞まを相成ぬ二高賣おめ
ませ〜そまの後見〜は万のお坊まんの後をまを
ろ〜おまけの史をの作去清まんの物ををおお
お成おろまけり〜お地面の〜お分り〜おのり

二軒十一ノ四

あり二軒の高賣〜おろくそふお高ひ店成源合意〜おし
おろくそふお高ひ店成源合意〜おし
おろくそふお高ひ店成源合意〜おし
おろくそふお高ひ店成源合意〜おし
おろくそふお高ひ店成源合意〜おし
おろくそふお高ひ店成源合意〜おし
おろくそふお高ひ店成源合意〜おし
おろくそふお高ひ店成源合意〜おし
おろくそふお高ひ店成源合意〜おし
おろくそふお高ひ店成源合意〜おし

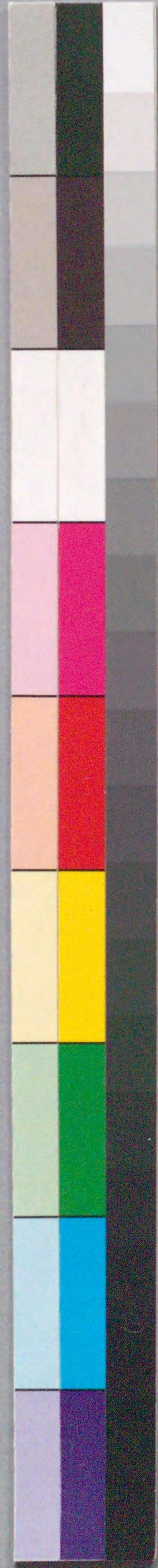






今日そのお人がはやくお出のひのちをくびらいてお出
なすにハナを思ふるよけのひの子 振付おれん
お在るもの 江戸の女中の化粧をさありの
藤姫 娘ごう 雅おるるわううとひつとわいも
わうしひるふのサそん実のひを途中ぐ
こうわく先へ欠ぬけく来るあごうう今更
りみおわりの子 下とちれたるわいおれん
もお同うのからあひのヨお柳さん 屋敷に
りて柳十ノ七

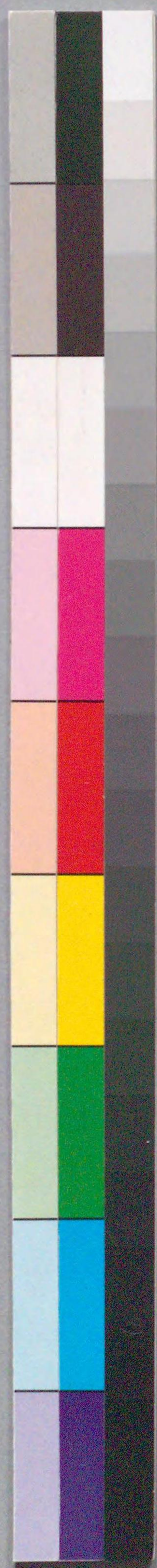
ままの ぬんか 長ナ 打マ ぬわう ままのヨ
ア~~~~ ちねお ちねお ちねお ちねお
新へ ちねおの ちねおの ちねおの ちねおの
人 柳の 柳の 柳の 柳の
の 中 柳の 柳の 柳の 柳の
人 見 柳の 柳の 柳の 柳の
接子 柳の 柳の 柳の 柳の
仁平さん 柳の 柳の 柳の 柳の



はるく夢小お出るまのまートの成笑や二人の去秋
くく夢く夢くゆふお柳は尾那多 柳は換投を
せんとも成支へ解といふ人の影をさく柳りせし
来りー男は一向お終りたもせむ年丸のて知らぬ
影めん 痛くゆふお柳るなるまぐ人遠ひくと類ひ
茶ねが心成あけ 乳を例の乳衣を涙舌葉張
汲仰く 煙葉の火成心射屏風の中へ入り密やふ
お年代の耳くきやけむお年代をむとるき屏風の

ゆ新土ノハ

後よりき一記き再友お柳と叫き合響流者も
ゆへおが志良木の底の二人の考もと方ありわりー
男もそをたぐあうけえ 由途切あぐさる乃た
互小叫き合息合 一お柳さん今月のまのあふ
帰りまはヨお柳とさんぐゆ柳の痛れぐさるさ
ぶらぶらゆきまこ二三日の中ゆ来りませうト云ね
お柳の屏風成を出 柳一さあふさうお風の毒をど
まのまはが然あぬて下ま 柳柳も病心をさだ

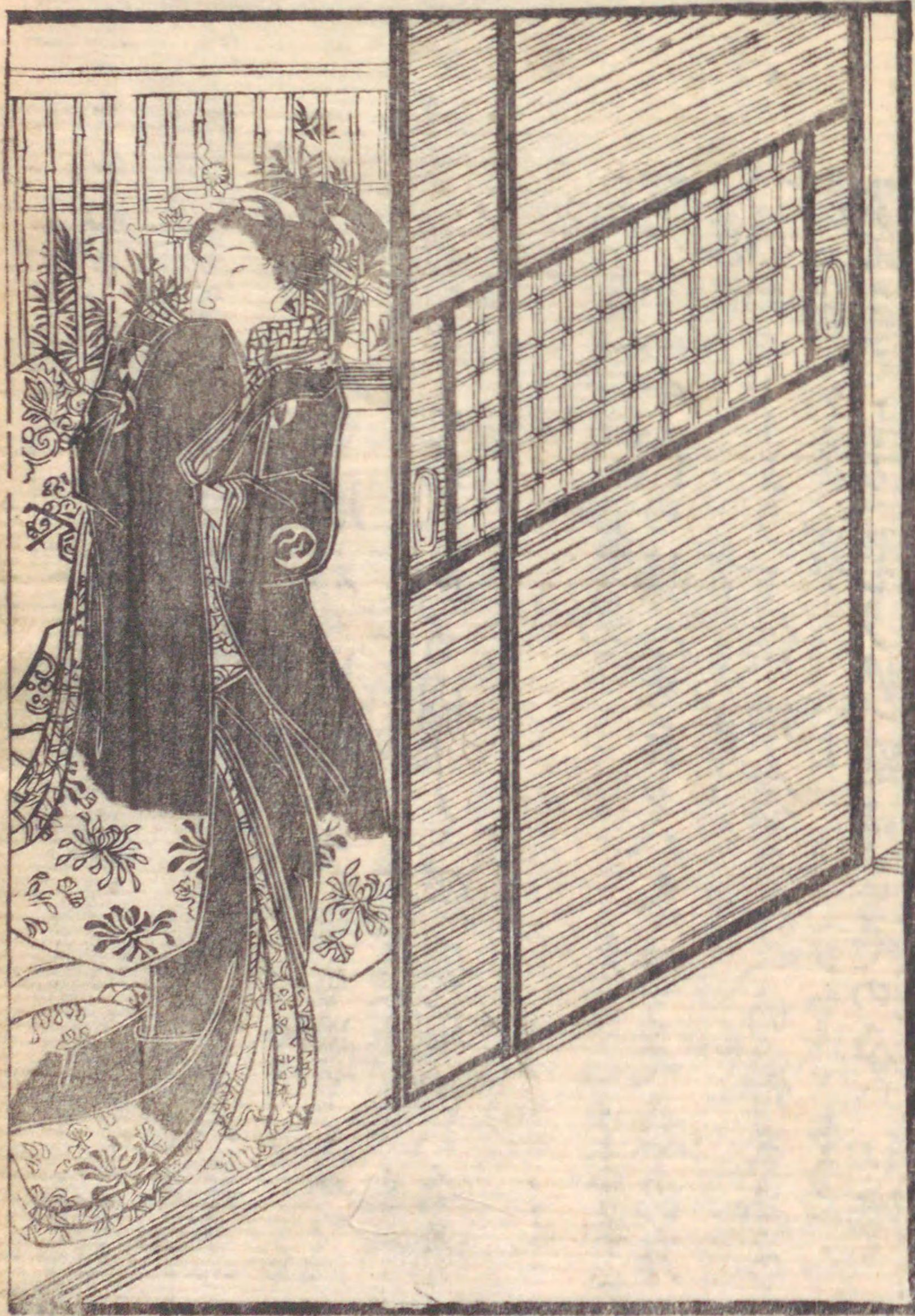


石実^{いしじつ}を任^{まか}方^{かた}心^{こころ}持^もつゝいぢやア多^{おほく}之^{これ}私^{わが}やア悔^くし^くッ
 人^{ひと}ありあつた^{あつた} 柳^{やなぎ}ハ^は花^{はな}を^をま^ます^すア^ア 總^もて^てれ^れど^ども^も悔^くし^くと^とえ^え
 が先^{まづ}此^{こゝ}の^の心^{こころ}を^をい^いへ^へん^んと^とあ^あら^らふ^ふと^とあ^あら^らま^まい^い
 久^く文^{ぶん}で^で總^もて^てあ^あら^らま^まい^い子^こ徳^{とく}と^と考^{かう}へ^へん^んと^とあ^あら^らま^まい^い
 り^りふ^ふと^とあ^あら^らま^まい^い 蘇^そ我^がと^と先^{まづ}別^{べつ}の^の人^{ひと}が^がい^いへ^へん^んと^とあ^あら^らま^まい^い
 正^{ただ}美^みの^のい^いへ^へん^んハ^ハい^いぢ^ぢぢ^ぢと^とい^いふ^ふと^とあ^あら^らま^まい^い
 他^{ほか}と^とい^いふ^ふと^とあ^あら^らま^まい^い 此^{こゝ}の^の心^{こころ}を^をい^いへ^へん^んと^とあ^あら^らま^まい^い
 死^しび^びと^とい^いふ^ふと^とあ^あら^らま^まい^い 悔^くし^くと^とい^いふ^ふと^とあ^あら^らま^まい^い

生^{なま}柳^{やなぎ}十一^{じゅういち}十五^ご
 一^{いち}十^{じゅう}三^{さん}

あり^{あり}と^とい^いふ^ふと^とあ^あら^らま^まい^い 柳^{やなぎ}と^とい^いふ^ふと^とあ^あら^らま^まい^い
 を^をい^いへ^へん^んと^とあ^あら^らま^まい^い 悔^くし^くと^とい^いふ^ふと^とあ^あら^らま^まい^い
 り^りふ^ふと^とあ^あら^らま^まい^い 蘇^そ我^がと^と先^{まづ}別^{べつ}の^の人^{ひと}が^がい^いへ^へん^んと^とあ^あら^らま^まい^い
 正^{ただ}美^みの^のい^いへ^へん^んハ^ハい^いぢ^ぢぢ^ぢと^とい^いふ^ふと^とあ^あら^らま^まい^い
 他^{ほか}と^とい^いふ^ふと^とあ^あら^らま^まい^い 此^{こゝ}の^の心^{こころ}を^をい^いへ^へん^んと^とあ^あら^らま^まい^い
 死^しび^びと^とい^いふ^ふと^とあ^あら^らま^まい^い 悔^くし^くと^とい^いふ^ふと^とあ^あら^らま^まい^い
 家^{いえ}内^{うち}の^の心^{こころ}を^をい^いへ^へん^んと^とあ^あら^らま^まい^い





二八十四



ありまをねつと津ねらむもむ十代は移心の中は
此書別子方女の情部抄中も先小角山先
のり流あえ人並勝れと生ゆも文智も著る義の流
実理りと著しつゝお柳も同く俱流増流の云々
いあつせけり

されまゝ終る亦お年代の情人並著るが八年終るは裏の流
へお柳りしより下総作余の在りゆ作去流の
極流連てと方へ宅りゆ途申まのり初編二

お柳りしより

編小記しと看宿るゝ初りせまゝせられどもお年代
とお柳りしよりとも初る亦連著とお柳りしより
先流増流除とと方へ宅りし後のり看宿る
いまぞ初りせとあゝるゝ初りせまゝせられどもお年代
小宅りくあゆ再玄流金下りしり流累とと方
此せむその心あゝるせまゝせられどもお年代

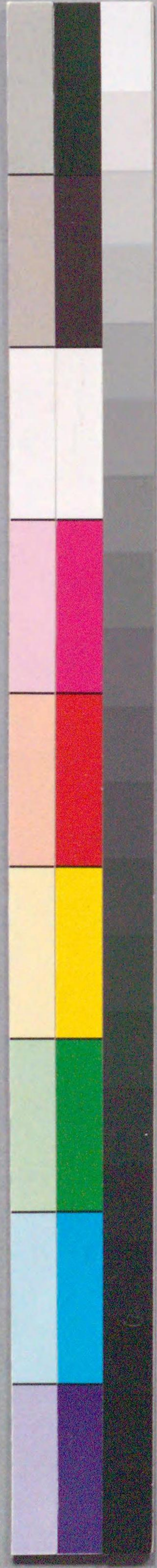
爰小諸國の本家お柳りしより一と初る亦連著とお柳りしより
も志象著といふと初る亦連著とお柳りしより



鎌倉の出生ありしが惣先年小及びて海内三津の
而家ある熱支能成を射られ主人同家のたすの身分
とありん上方の地行所もをあるりありて跡小死人の
病ひぢらふありし子孫の子孫も考へて依倉の在
るの娘のお種の梅子を忍ぶ連をせきせりあり亦連
ある之年経以家小作を造り心ふ叶ひ不圖能ふありし
より尚ほ内加のる我能成が連ある相成たる梅小
ありけ家も娘のふと能成依倉考へしその途中

江戸 十一十五

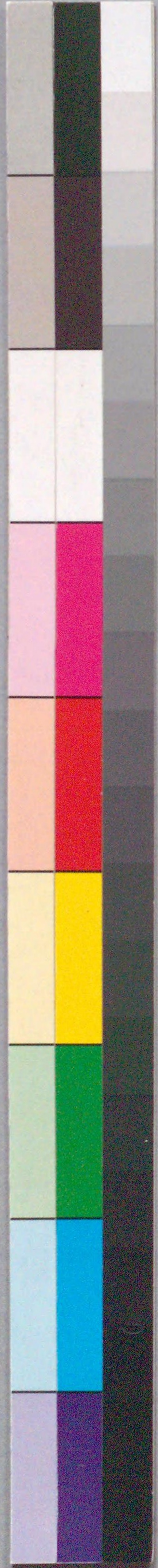
おれが青柳梅のお千代が方の跡成る小考能させし
より亦お千代より小児考を考へし作を清が上方へあり
て後之年梅り役で成るありし小梅とのありお千代が
之を實義の女ありし元娼妓小等しき咽女あり能成
と六年ゆらり小遠に能成連ある上へ電る以六十二方あり
代ハ二十に才のひる加多く作言清が一生能成るあり
ハありしと心小思ひ切し小梅上へ電りし後便り能
せは小梅も小身の能成をせよと云ん別去しし六天概



208
12
686

Handwritten text in a grid format, likely a list or index. The text is faint and difficult to read, but appears to be organized in columns and rows within a rectangular border.

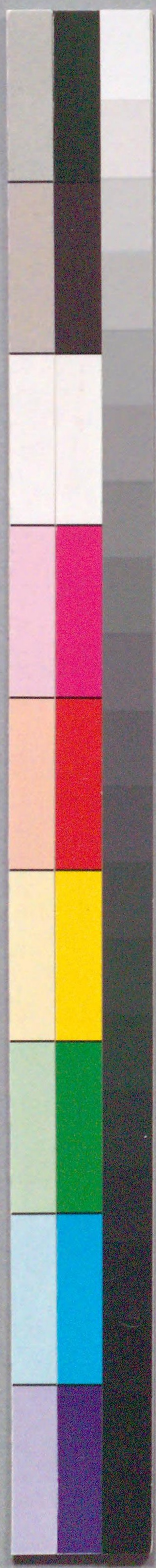
縦書きの文字列。右側の欄に記述されている。内容は「...」と続くように見えます。

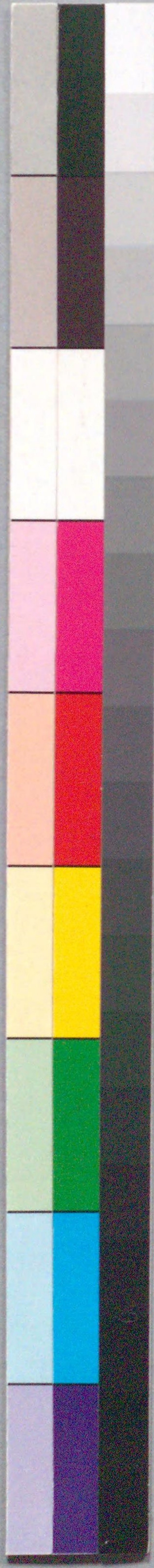


208
12
686

国立国会図書館 同房語艶以登家奈幾 4編 208-686

ガラス使用





国立国会図書館 同房語艶以登家奈幾 4編 208-686

ガラス使用